

第4回駒ヶ根市自治組織の在り方検討会 会議録

日時：令和6年4月24日（水）19時～20時30分

場所：駒ヶ根市役所本庁舎大会議室

出席者：委員21名、事務局5名、傍聴1名

1 開会

中嶋課長 皆さんこんばんは。この4月から総務課長ということでお世話になります。中嶋と申します。よろしくお願いします。

本日、岡田副座長さんがご欠席でありますので代わりまして私が進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。時間となりましたので、それではただいまから第4回自治組織の在り方検討会を開会いたします。よろしくお願いします。着座にて進めさせていただきます。

○新委員紹介

中嶋課長 会議に入ります前に、本日より新しく加わりました委員さんがいらっしゃいますので、ご紹介いたします。

中割区の新井委員に代わりまして上杉委員です。それでは委員さんから自己紹介をお願いいたします。

上杉委員 今日から出席させていただくことになりました。中割区から来ました。上杉と申します。前新井委員さんが、都合で出られないということですので、代わりまして出席いたします。今日からよろしくお願いいたします。

中嶋課長 ありがとうございます。この他、本日欠席されておりますが社会福祉協議会推薦委員に中村竜一委員が新たに加わっております。

また本日欠席のご連絡を岡田委員、小池委員、中澤委員、金村委員、氣賀澤委員、林委員からいただいておりますのでご報告いたします。

2 座長あいさつ

中嶋課長 続きまして森岡座長さんよりご挨拶をお願いいたします。

森岡座長 皆さんこんばんは。

今日で4回目の会議になります。全8回という予定ですので、今日終われば、あと半分ということで、私も少し気が楽になってくるかなと思います。

前回のグループワークで多くの意見が出て、良い雰囲気を進めていただいたのではないかと思います。いろんな立場での意見で、それぞれ共感や気づきというものが出てきたのではないかと思います。

以前事務局の資料でこんな言葉がありました。「20年・30年と持続可能な駒ヶ根モデル創出」という言葉です。事務局の方と、これはなかなか重い言葉で、この会議の責任はかなり重い話ではないですかという話をしました。そうしたら、あまり責任を感じすぎないようにしてくださいということでした。身近で素朴な疑問や困り事を出していただくということが非常にまず大事だということのお話がありました。前回同様、少し肩の力を抜いて、茶飲み話というわけにはいかないけれども気楽に話をまず出していただいて、いろんなご意見がぶつかり合うところも大事じゃないかなというふうに思います。本日もよろしくお願いいたします。

3 検討事項

(1) グループワークについて説明

森岡座長 それでは3番の検討事項に入ります。事務局よりグループワークについての説明をお願いいたします。

<事務局よりグループワークの説明>

(1) グループワークについて説明 【5分】

グループ分け、役割分担 次第裏面名簿

(2) グループワーク 会場内 A～Dグループに分かれる

<テーマ>

○第2回会議 講演会の感想

①次回以降の論点を整理するため、委員の皆様の問題意識を共有し合う。

②今後の議論の進め方について提案

<グループワークの進め方> 【50分間】 <目安の時間>

①自己紹介 一人1分以内 【8分】 19:10-19:18

②役割決め 進行役、書記、タイムキーパー 【2分】 19:18-19:02

③グループワーク

【30分】19:20-19:50

○出された意見を付箋に書いて模造紙に貼っていく。

○何回か繰り返す。

○関連する付箋をグループ分けし、見出しを付けていく

④まとめ

【10分】19:50-20:00

○発表のため模造紙に書き出す

(3) 発表・記録 各グループ5分

【20分】20:00-20:20

※運営は基本的に委員が行う。事務局の議論には参加せずに運営を補助する。

森岡座長 続いて白戸先生から補足がありましたらお願いいたします。

白戸アドバイザー 皆さんこんばん。松本大学の白戸でございます。補足は特にはないんですが、ぜひ、次回以降のために、もう少し絞り込んで議論をお願いしたいと思っています。特にこの部分を論点として取り上げたいということを、いくつか、それぞれ出していただければと思います。よろしくお願いします。

森岡座長 それでは、これからグループワークを始めていただきます。時間は50分ということです。今が7時7分くらいですので、8時からはこちらで発表をしていただきます。それぞれの場所でグループワークを進めていただきます。タイムキーパーの方は時間の管理をお願いします。

それでは各場所移動していただきながら進めていただきたいと思いますよろしくお願いします。

(2) グループワーク 19:07~20:00

(3) 発表記録 各グループ5分

森岡座長 それでは全体会議を再開いたします。グループごとを討論結果の発表をお願いしたいと思います。時間は5分以内です。お願いいたします。それではAグループからお願いいたします。

グループA

発表 向山委員

はいAグループは、前回のグループワークで出たものから課題を挙げてみようというところで始めました。

①組織・役員、自治会費のことや②防災、子育て、③生活環境という事と、④次回以降の議論を話しました。

① 組織・役員・自治会費に関してですが、いろいろ話を煮詰めたのですが、その中で何とかなるだろうという話になりました。というのは、役員さんの負担軽減に関しては、例えば事務的なものをLINEでやっていくだとか、出たのですけれど、そういうことをやっていくことによって、そういうものは負担軽減になって何とかなるのではないかという話になりました。

② それから防災・子育ては、自治組織に参加をしてない方の意見がいろいろある中で、なんで自分が組織に入る必要があるのか、メリットは何かという話になり、防災とか子育てというのは、地域の皆さんと協力し合いながら進めていかなければ、いざというときには保護者は自分の身を守ることさえもできなくなるのではないかという話になりました。結局、自治組織というのは請負の組織になってしまうのだということになりました。そういう観点から防災・子育て、あるいは福祉というものを、タテ割りではなく重要な一つのまとまりで考えていくと、自治組織というのが少しわかってくるのではないかという話になりました。

それらを踏まえて、次回以降の議論は、まず自治組織に何を求めるかということ、人と人との繋がりなのではないかというところで、それを作る場が自治組織ではないかという結論に私達の中ではなりました。

そのこと等を中心に、次回以降の議論が行われたらいいんじゃないかなというふうに結論がまとまりました。

森岡座長 続きましてBグループの発表に移りたいと思います。よろしくお願いいたします。

グループB

発表 上杉委員

それではBグループの発表をさせていただきます。

Bグループは自治組織がどうあるべきかということから入りました。メリットとは何かという事とか。防災と、役員のあり方に絞られました。

グループBに選任されてきた方は皆、区長経験者ということで、話の多くが苦労話になります。自治組織に加入するメリットは、防災面になります。誰1人取り残さないで避難所まで案内しなければならない等、防災面で自治会としてやらなければならない仕事がたくさんある。自治会に入ってる方と入ってない方の対応をどうするか。子育ても含めて、防災上も自治会に入ってる入ってないに関係なく同じようにやらなければならないという話が出ました。

結論ですが、基本は全員が自治組織に入らないと、メリットを享受できないし、活動もうまくいかないということです。全員加入が理想になります。どうやって全員加入するかというと、一例を今日、見せてもらいました。

伊那市の事例があり、自治会のパンフレットA4、2枚表裏 4ページに渡って、この自治会はこの自治会ですよというパンフレットができています。地図もあるし、商店の案内もあるし、それから入会金、質問や疑問に思うことは大体みんな書いてあります。それを事前に見てもらおうと、そこに引っ越してきた方はどこに住みたいかというのを見て選べるというようなことで、ちょっと先進的な伊那市の事例があったので、そういうのをぜひ作りたいという話も出ました。

それから、役員の仕事のあり方ということで、一番苦労するのは次の区長さんを誰にしようか。なり手が非常にいないということです。仕事がありすぎるというところをどう考えるか。ではどういう仕事があるのかという事ですが、絞っていったら、この辺は市の担当の方と話をしなければいけないことが多くなるとは思いますが。例えば地区のお祭りに話を絞ると、これは市で何かするっていうのはなくて、完全に自治会がうまく工夫していかなければいけない。というのもあり、そこからそういうのから寄付を集めなきゃいけない。これはどっちでやってもいいのではないかと。いろいろな行事にやらなければいけないことが、レベルが違くだろということもあります。その辺を一つ一つ分けをしていって、今の時代に合った自治組織がやらなければいけないこと、市が特にやらなければいけないこと。これはお金で解決できる部分と分けていって、ここが良いのではないかと。というようなことも話し合いで出てく

る。はっきりとこれだということまではまだいかないですが、この二つを追いかけて評価してもいいという話ができただけのことです。次回からどういうことが良いかということですが、今日も話をしながら、「こんなこと話ししようよ」、「次回はこういうことを結論を出したい」、というようなことを先に事前にわかっていればですね、そういう自分なりの考えを持って集まってくれるので、ぜひそれをちょっとやりたいなと考えています。

森岡座長 続きましてCグループの方よろしく願いいたします。質疑を後でまとめてという形になります。

グループC

発表 庄村委員

Cグループでは、そんなにまとまってそれっていうものっていうのは感じではないんですけど、具体的に自治会にも入ってる現実的なメリットとして、防災というものが挙げられるので、そこに着目して考えていきました。具体的な問題点としては災害時の要支援者をどうやって地域で支えていくかということがありました。色々なバックグラウンドを持った人で海外からきている人たちとか自治会に加入していない人たちが孤立してしまう事をどう考えるかというところに話していき、出てきた解決案としては、転入時に入ってきたときに、自治会に、いくつか選択肢オプションがあったらよいのではないかという事です。会費を払わなければいけないなど、いろいろルールなどの敷居を排除してはどうかなど、防災に特化したところとか自主防災組織というところに入るような正会員と準会員のような選択肢があるとかAコース・Bコースにわかれているというのがあると良いのではないかという話になりました。自治会とですね自主防災組織を分けて作ってうまくいっているという理解もあるようなので、そうしたものを取り入れてはどうかという事です。防災というのが誰にとっても必要不可欠です。そこを曲げて入らないというふうに拒否する人はあまりいないのではないかと思います。次回の課題としてはまずは防災関係の先行事例を見たり事例を見ながら私たちの地域特性に合わせていけば良いのではないかと考えています。

森岡座長 はい、ありがとうございました。最後にDグループの方お願いいたします。

グループD

発表 中嶋委員

ちょっとDグループは切り口が違ってしまったのかなという気がします。私としては合ってるような気がします。

まず切り口としたらその役員の負担というところを一番大きな切り口として考えました。その中で課題としては市とのやり取りというところ、募金とかそれから各種いろいろたくさんあります。市のかたは募金がいくつあるかご存知ですか。私も知りません。ということで非常に多いですね。その他にもいろんなものと非常に多いのでそれが役員をやったときの負担というところになってくる。これはまず区長のところにドーンと来てそれを下の方までドドンといって実際には自治会の会員のところまで降りて行ってまた戻ってくるということです。

市とのやり取りと配布物がまず多い。何とか少なくならないだろうか。それから補助金。これまた非常に面倒くさい。まず申請します。許可が下ります。何か発注します。戻ってきて発注したら、お金を払ってそれを今度はまた申請する。請求を出す。非常に煩雑な業務をしなければならないということです。市の改善できるところというのはものすごくあって、実は毎回口座を市に出しています。各課ごとに請求を出すのに、各課のところに、口座なんて一度登録してあるんだけど、結局はまた、毎回出すというようなことをやってる。というようなところで先ず市とのやり取りが問題点ですね。

行事は自治会自体がやってるものなので、それほど自分たちでやろうと思えばいろいろ改善できるということです。だんだん内容を変えながらやっていくというところですね。

それから他のところで出ていた防災ですが、私達のところでは余り問題ないねと、割合うまくいってるところだという話になりました。

それからもう一つ大きい問題としたら、ゴミ収集というようなものですね。環境美化のところですけど高齢化でゴミ出しができなくなってゴミ屋敷になってしまったというような例。こういうところをどうしていくのか、それからゴミの分別ができていないというようなところ。

それからもう一つ大きいところではふれあい花壇。これは何のためにやってるんだというところを中原委員さんに聞こうかなとは思ってたんですけど。よくわからないなというところですね。

結果としてまとめると、まず自治組織を考える前に、市の方はいろんな改善をした方がいいんじゃないか。多分私の見方からすると、今の業務の3分の1ぐらいには減らせるんじゃないかと。私の見立てでは思っています。それができると、役員をやる方がものすごく楽になって実際の自治組織の活動をもっといろんなことができるようになる。そういう方向に持っていくと、活性化した自治組織ができるんじゃないかということで。ぜひ最終的には市の文句をつけておしまいということでありありがとうございました。

森岡座長 はい、ありがとうございましたそれでは四つ発表していただきましたけど、それぞれの発表に何かご質問等ありますでしょうか。挙手お願いします。いかがでしょうか？他のグループの発表に何かご質問等あればですが。よろしいですか。

4) 質疑・講評・アドバイス

森岡座長 それでは白戸先生の方から最後に好評いただきたいと思います。

白戸アドバイザー はい、まとめというか、今後に繋げるということでちょっと問題点をいくつかさせていただきたいと思うんです。

最後の発表であったようにもし、自治組織がなくなったら何が困るんですかね。もしなくなったら困るのは何だろう。多分行政は困りますよね。多分行政は間違いなく困るんです。住民は困らないかしらという、そのところからもう一つは考えておいた方がいいのかな。要するに既にあるから、それを何とか守らなければいけないという発想だと、なかなか画期的にはならないし、なくなったらどうなるかっていう発想。そうすると役割が見えてくるような気がするんですね。まず一つそれは今後の議論の中でも考えてもいいのかな。特に今のお話で一つ言えるのは、やはり僕もいわゆる町会の役員やったり市のいろんな委員をやったりする中で思ってるのは、やはり行政がやるべきことと、住民がやるべきこととはやはりあって、仮に住民ができて行政がやるべきことは、やはり行政がやらなければいけないし、住民がやるべきことは行政が手を出してはいけない。その辺の線引きだと思うんですよね。これは多分住民

だけじゃなくて行政も含めて、地域を動かして行って、行政も含めた、どういうあり方があるかという、本当にある種の住民の自治とか、あるいは市町村自治を問われるものが一つ出てくるのかなというのがあります。今後その辺がきちんと考えてかないといけないかなというのは一点です。

残念ながら、松本もそうですけれども、住民自治といったときに、住民自治が実感できるようなことが見えているのか。例えば飯田はね、市の総合計画を作るときに、集落ごとに計画を作り、それをまとめて地区の計画として、地区の計画をまとめて、全市の総合計画を作っています。委員集めて、コンサルに何かアンケートをさせて、それでどこでもある似たような計画、「五つの柱、七つの何とか」って大体どこでも一緒でね。みんな写したようなのが出てくるんですよ。僕は前職コンサルですから、それをたくさん作って、地名と予算だけ変えて出したみたいですね。そういう会社にはいましたので。技術ではないですよ。

例えばそういうことが目に見えてるのか。例えばそういうことをやるだけでも、集落ごとに自分たちの議論したことが積み上がって行って、駒ヶ根市の総合計画になるという、結構やる気になるんじゃないか。こういう話し合いをその各集落、自治会でやることができればもっと活性化するんですよ。それが一つ。

例えば松本に蟻ヶ崎西町会というのがあります。大きな町会で 800 件あるんですよ。これ女性町会長がずっとやっていて、今も女性が結構活躍してるんです。ここはですね、そういう意味でははっきりして、100 戸単位に八つの地区に分けて、地区長というのがあって、その下に隣組長がいるんですよ。毎月 1 回、総会とか役員会がある時は、隣組長以上は全員行って、それで何するかというと、最初の 1 時間は隣組が地区ごとに要望事項を一斉に出すんです。道路に穴が開いてるから何とかしようとか、あそこの枝が出てるから何とかしろとか。それを集約して行って、後半の 1 時間は、今度は役員。専門部長だとか、町会長、区長会会計とかと地区長以上が入って、それを自助・公助・共助。要するに公助の部分は次の日にまとめて市役所に町会長が言いに行くんです。これやってくれと。その代わり何でもかんでも要望するのではなくて、優先順位をつけます。共助は町会としてお金も人手も出して解決しましょう、というのをずっとやっています。その結果を全部広報紙に情報公開して提示するというのをやってる。蟻ヶ崎西町会というのがあります。

要は、そういうことをやりましょうということではありません。

目に見えるか？ということです。そういう自治を本当に実感できるような仕組みになってるかという事がすごく大事なことだと思います。その辺を今後どうしていくかというのも大事なことだろうと思います。

それからもう一つは、先ほど防災の話が出てたんですが、実は町会とか自治会が全てを担わなければいけないというところに多分少し無理があると思います。昔の自治のことを考えると、意外と、例えば食生活のことは食生活改善委員のおばさんが一生懸命やっていました。それから健康作りとかは保健指導員さんがやってる。結構そういうテーマに即したグループがたくさんあって、そのグループの人たちが自分たちの活動をやってそれを横に繋ぎながら、それをコーディネートするような役割を、自治会が取ってたような部分もあります。

要するに昔は同じように農業をして、同じような価値観を持って、同じような生活スタイルをとっていた人たちがいたから、一つの組織で良かったんだと思います。

ところが、今はすごく多様な人がたくさんいるので、その1人1人の興味・関心だとか、どこに食いつくかっていうのをみんな違うんですね。それを一律に例えば自治会みたいなところで、「はい、皆さん入りましょう」ってそれは無理でしょ。

例えば松本なんかでは、若い人たちが地域に関わる最初の一步が公民館にある子育てサークルです。子育ての時に大体困ってみんなで行く。そこで子育てが終わってもどこかに行ってしまうように何かネットワークを作っていく。

そういうことをやっていて、テーマ型と言われる、そのテーマをメインにした一つの活動体。それから地縁型という要するに自治会みたいな地域全体を横に繋ぐような活動というのをどういうふうに組み合わせていくか。

縦系と横系みたいな。そこに例えばNPOみたいなそういうものも含めていって、総体として地域を動かす組織作りになってネットワーク作りが必要なんですね。

そのときに、やはり新しく来た人が自治会に入らないと全然名前も何もないっていうような、どのグループも出ていました。

どこかで引っかかればいいんですよ。どこかに引っかかって、誰かが、全員が一遍ではなくていいから、どこかで誰かが引っかかって、最終的に全員がどこかで引っかかっていれば、地域としての安全性だとか、そういうものが担保できると思います。

そういう意味ではネットワークとしての自治組織の在り方。自治組織だけではなくて、その他のいろんな活動。今、実際には、松本もそうですけど、日赤奉仕団だなん

だというのも、みんな自治組織の下にいて、お金もこっちに来て、こっちに抜けてみたりするわけです。

それで負担だけがたくさんあって、役員がたくさんいないといけない。そういう組織もみんな町会の長がいて、地区の長がいて、全市町会長がいます。町会長さんもそうですけれども、連合町会の中に入ってしまうと、会議ばかりで、自分の町会の地域、地域のことを考えてる暇がないというぐらい、仕事がたくさんあります。その辺をきちんと整理するしながら、ネットワークを作っていくということも、すごく大事なことなのかなと思ってお聞きしました。

特に、こういうネットワークができると何がいいかというと、「マッチング」。要するに、意外とその情報が共有されていないために、このグループとこのグループが一緒にやったら解決することができなかつたりするんですね。

これ、講演で話したかもしれませんが、豊科で、老人クラブに余り役割がなくて、ちょっと腐ってたんですね。ある年、子育て世代の人たちに「何か困ったことありますか」と尋ねたら、彼らは色々なことを言うわけですよ。そうすると、それを聞いて「ああ、自分たちにはやることがある。」って老人クラブがものすごく活性化した。

そういうマッチング機能というのがね、地域の中で多分すごく弱くなってる。何かできる人がこっちで何か困ってる人がいるんです。それを繋げる役割の人がいない。そこは例えば行政のソーシャルワーカーだとか、そういう人たちに期待をするんだけど、みんながみんなそんなことやってられない。そういう部分を、可能性というのも少しネットワークの可能性というものを考えていかなきゃいけない。それで最後になりますけど、そのためにはですね、やはり役員の問題は出てたんだけど、人を育てるシステムっていうものがやっぱり必要なんだろうなあと思います。

要するに役員がいないということを嘆くよりは、そういう役員をやろうという人たちが出てこないことの方が、やっぱり問題です。その意識の問題もあるし魅力の問題もあります。昔のことを考えると、例えば今もそうです。

野沢温泉村ってね、ご存知だと思います。そこで火祭りをやるんですよ。火祭りには大きなお祭りで道祖神祭りという事でテレビに出るんです。あそこはですね、同級生というのがね、200人とか300人単位でいるっていうんです。それは何かっていうと、火祭りのために40歳、41歳、42歳の厄年を介して3年間、その世代の人がその実行委員になって火祭りをやるんです。そこは男の人だけじゃなくて女性も、それからお嫁に来た人も、それからたまたま転勤でいる人も、要するにその年の人は全員そ

こに参加して、半分ぐらい飲み会をやっているのですけれども。そうやって3年間一緒にやっていくことで地域の中でネットワークができます。それで予算をどうするか、どういうお祭りにするかということを議論したり、お金をどうするかという話をしたりする。

野沢温泉村というのは、ご存知だと思うんですが、野沢温泉スキー場というのは、あれは町会っていうか地区が持っているんです。数千万円の予算を動かしているんです。そのためには、そういうふうにして人を育てていかないといけないというのがあります。

昔は生活改善グループだとか、食生活だとか、保健指導員なんかで、それが何か専門的な役割を果たすだけではなく、そこで地域を担う人が育っていた。今、どんどんそういう地域の活動というのはなくなってくると、育たなくなってきました。PTAなんかで一生懸命やった人が公民館あたりで役をやってくれてるとあります。やはり、人をどうやって育てていくかということも考えないと、どんなに素敵な組織を作っても、それを担う人がいなければ育たないですね。うまくいかないだろうと思うんです。

松本に福祉医療っていうのがあってですね、地区に福祉のセンターみたいなやつがあります。普通の行政のセンターと違う住民が全部、市から委託を受けて推進協議会というのを作ってやるんですね。そこには社協の役員のメンバーみたいな、町会長とか民生委員さんとかもちろん、職名で入るんですね。プラス、ボランティアとか自主的な人が入ります。

うちの町会でちょっと変わった職人をやっていたおじさんがいました。そのなんか、そういう事が嫌いだね、町会には参加しないといっているんです。でもそういう活動はやりたいものだから、本郷地区という地区の福祉広場の活動を始めて、そこでネットワークを作っているんな活動をやってきました。最後は結局、その人は町会長になりました。要するに町会長になってもいいという関係がそこでできたら、町会長になったのであって、そういう人を育てる仕組みというものを、本気で考えないといけないのではないかということを皆さんのお話を聞いていて感じました。

少し思いついたところを、パパっと言ってたんですが、少し論点を絞りながら、次回以降やりたいなと思います。

それで、こちらのグループでもあったように、少し前にこういうテーマでやるんだというようなことがわかれば、議論もできます。

あるいは、ご相談なんですけども、みんながみんな同じことを議論するんじゃなくて、テーマ別で好きなところに伺ってもらって深めてもらうっていうのもありだし、そんなようなことをですね、次回のまでに整理をして、また皆さんにお諮りして進めていけばいいのかな、そんなふうに思います。以上です。

森岡座長 先生ありがとうございました。それでは、もしご質問等ありましたら次回の会議まで事務局の方にご連絡いただけますようよろしくお願いいたします。

4. その他

森岡座長 それでは4番目のその他ということで事務局からお願いいたします。

<事務局より次回の予定>

7月17日水曜日 19時から本庁市役所大会議室

5. 閉会

中嶋課長 はいそれではありがとうございました。

以上をもちまして第4回駒ヶ根市自治組織の在り方検討会を閉会といたします。

皆様お疲れ様でした。